

積水ハウス

米国で不動産開発

ヒューストン 1200区画 現地デベと共同で

積水ハウスは、米国の不動産開発事業に乗り出す。現地のデイベロップメントと共同で事業を展開する。第一弾としてテキサス州の都市ヒューストンで199haの土地を取得し

た。1200区画以上の宅地を開発する。3年後までに販売を始める。カリフォルニア州サンディエゴに本社を置く総合ファイブ・プロジェクトは、ニューランド社が91年から販売を始めたという。既に開発済を含めた開発総面積は3

236ha、住宅規模は1万4000戸以上。
中国でフッ素樹脂拡大
日本バルカーと提携
ダイキン工業
ダイキン工業と日本バルカー工業はこのほど、中国市場でのフッ素樹脂製品事業拡大を目的とした事業提携について合意した。
日本バルカー工業の中国現地法人である上海バルカー・フッ素樹脂製品有限公司にダイキン工業のフッ素樹脂の開発力・テクニカルサービスと、日本バルカー工業の成型加工技術を一体的に運用する。フッ素樹脂や成型加工品の安定供給と価格競争力を確保し、中国市場でのシェア拡大を図る。
上海バルカーは15年に100億円の売り上げを目指す。

「おひとりさま」のリフォーム

人を招く住まいに



今や総世帯の約3割を占め、最も多い単身世帯。年々増加し、30年には4割近くまで増加すると推計されている。これまではファミリーが主流だったリフォーム需要だが、最近は単身世帯が目立ち始めた。コンセプトは「人を招く」だ。

リフォームの現状と傾向を分析した。それによると、顧客層は40～60代の女性がメイン。女性は男性の2.5倍に上る。年齢で見ると30代では大きな差はないが、40～50代になると女性は男性の2倍、60代では4倍以上となる。70代では差が縮まるものの、80代以上では全て女性だ。

レポートでは、「女性は高齢になっても、よりよい生活への要求を持ち、それを実行する強い意志を感じさせる」と分析している。また、マンション・戸建て共にリフォーム個所としてはリビングが最も多い。次いでダイニング、キッチン、洗面・トイレと続く。西田所長は「一人暮らしだからこそ、人が集まれる空間やゆとり休める空間にこだわっているようだ」と指摘。具体的には、特に広さに余裕がある場合には、接客や子供が宿泊できる空間、サロンといった人が集まるための場所、趣味や書斎

度にとどまっているのが現状。ノンフロン製品も実用化されているものの、フロン製品と比べて断熱性が劣っていた。断熱性能を確保するには吹き付けの厚みを増す必要がある、施工費・材料費がかさむことが課題となっていた。「ゼロフロンER」は、断熱性や難燃性が特徴のフロン製品と同レベルの断熱性能となるため、同等の納まりのまま施工可能。設計仕様を要する場合は手間がかからないという。同社の木下全弘常務取締役は、「世の中は脱フロンの方向に進んでいる。発売してから、ビル・マンションの断熱材、注入不燃・断熱、ネルなどの現場発泡分野、そのほか幅広い方面で引き合いが出てきた。今後も積極的に提案していきたい」と話す。

特別企画 ビル・マンション向け ノンフロン現場発泡断熱材 「ゼロフロンER」

ビルやマンションの断熱材として使用されている旭有機材工業(本社・宮崎県延岡市、東京都千代田区)の「新フェノールウレタン現場発泡システム ゼロフロンER」が、オゾン層保護・地球温暖化防止大賞審査委員会特別賞を受賞した。地球温暖化の要因の一つとも言われるフロンを使用しない断熱材。フェノール樹脂メーカーとしての独自の引き合いも出てきた。地球温暖化防止の流れを追い風に、市場拡大を狙う。15(平成27)年度に「ゼロフロンER」で75億円の売り上げを目指す。

旭有機材工業 フロン品同等の断熱性能 樹脂メーカーの技術生かす

現場発泡硬質ウレタンフォームは断熱材の種類の一つ。現場で壁などの対象物にスプレーで吹き付ける。主にビルやマンション、倉庫用として利用されている。他の断熱材のノンフロン化がほぼ100%を達成しているのに対し、現場発泡ウレタンフォームは3割程度にとどまっているのが現状。ノンフロン製品も実用化されているものの、フロン製品と比べて断熱性が劣っていた。断熱性能を確保するには吹き付けの厚みを増す必要がある、施工費・材料費がかさむことが課題となっていた。「ゼロフロンER」は、断熱性や難燃性が特徴のフロン製品と同レベルの断熱性能となるため、同等の納まりのまま施工可能。設計仕様を要する場合は手間がかからないという。同社の木下全弘常務取締役は、「世の中は脱フロンの方向に進んでいる。発売してから、ビル・マンションの断熱材、注入不燃・断熱、ネルなどの現場発泡分野、そのほか幅広い方面で引き合いが出てきた。今後も積極的に提案していきたい」と話す。

快適性

積水化学工業住宅カンパニーは10月23日、全館換気空調システム搭載の木質ユニット住宅「ソーユーホーム空気工房プラス」を発売する。次世代省エネ基準で北海道・東北レベルの断熱性能を標準仕様とした構造躯体に、性能を高めた換気システムと全館運転制御ができる冷暖房システムを組み合わせた。快適性と経済性の両立を目指す。



「ソーユーホーム空気工房プラス」シリーズの代表外観

住まい・暮らしスタイル



木下全弘常務